



「バック・ナンバー」といえば、現在ではほとんどの人が車を思い浮かべるでしょう。試みに日本国語辞典(小学館)を見ると、①雑誌などの旧号。定期刊行物の古いもの。また比喩的に、古いものを整理して順序づけたもの。②自動車の後部につけた札に記した、車種および登録の番号。③運動選手が背中につける番号。背番号。とあります。広辞苑(岩波書店)第四版では③、①の順で記載があり、②の車の項はないので、急速な車社会の変化が想像できます。

ここでは①についての話です。「バック・ナンバーを揃える」ということは、月刊誌や季刊誌の世界では大事なことでした。特に専門書は、これまでの業績を知り、未来を目指すためにも大切にされています。

週刊誌時代になると「揃えて持っている」ことの意義は薄れてしまっています。むしろシリーズ本を揃えている方が普通です。

テレビ放映のおかげで「スタートレック」などの文庫本が大人気で読まれました。現代の子どもたちは「コナン」

シリーズを買い求めているようです。ハヤカワ文庫の「ローダン・シリーズ」は、この十月で三四〇巻目を迎えた息の長いSFですが、元はドイツの週刊誌を二冊ずつまとめて文庫本にしたもので、年十回刊行で出版されていました。今では毎月刊行となりました。

私は「暮らしの手帖」を創刊号から持っています。最初は季刊誌でしたが現在は隔月発行となり、年六回プラス別冊が手元に届きます。通巻三八〇号を超えていると思います。季節やその時代に合った内容が盛り込まれていてもおもしろいのですが、何と云っても商品テストの結果報告がとても参考になります。ホームベーカー時代を迎えて、私もパン焼き機を購入しましたが、なんと行きつけの電器店で注文しても数日配達が遅れました。やはり「手帖」を参考にしている人が大勢いる結果だと思いました。

ところで先日東京の際、電車内でパソコンの画面で小説を読んでいる人を見かけました。端末を操作するだけであらゆる情報が入手できるとするならば「バック・ナンバーを揃える」ことは過去の遺物となりそうです。特に近年、インターネットなどの情報通信の発達が目覚ましいものがあります。これは良い情報も多く伝えますが、悪い情報も伝えます。教育の世界においても、時代の移り変わりをよく認識して対応する必要がありますと感じさせられます。

平成19年度 冬の青少年育成の手引き

伸びよう 伸ばそう 青少年

家庭、地域の「絆」「つながり」「温もり」の実感を！

冬のこの時期は、新たな決意で新年を迎える希望に満ちた青少年との出会いがあります。

また、年末年始は家族そろって過ごす日が多くあり「家族の絆」を強めたり「家族の一員」としての自覚を高める絶好の場でもあります。

さらには、各地で伝統行事も行われ、ふるさとの歴史や文化に接する機会も多くあります。その中で、地域を理解し、愛着を深め「他者とのつながり」や「郷土を愛する心」を育むこともできます。

そこで、青少年が家庭の絆や他者とのつながり、地域の温もりなどを実感でき「健やかに」成長できるよう家庭、地域、学校などが連携して「子育て」を推進していきましょう。

重点目標

青少年の心の成長を支援しましょう

- 家族の絆と、家族の一員としての自覚を高めましょう。
- 食生活への関心を高め、健全な心身の育成を図りましょう。
- 虐待の未然防止と相談活動の充実を図りましょう。
- 喫煙、飲酒、薬物乱用防止の啓発活動を展開しましょう。
- 性に関する正しい知識を普及しましょう。
- 有害サイトへの接続防止ソフトの普及を進めましょう。

青少年の地域活動を支援しましょう

- 異年齢、三世代交流で温かい人間関係を育てましょう。
- 伝統行事に主体的に参加し、地域への親しみと関心を高め、醸成しましょう。
- 子どもクラブ活動の工夫と活性化を図りましょう。
- 青少年が、安心して活動できる安全対策を進めましょう。

